

研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

社会の中で、よりよく生きる力を児童一人一人に育むために、地域と深くかかわり、働きかける「体験活動と学習」を重視した教科を創設する教育課程の研究開発

2 研究の概要

全学年に教科「地域共生科」を創設する。グローバル化による価値観の多様化やテクノロジーの急速な進歩など激しく変化する社会の中で、よりよく生きる力を育んでいく教育課程を創出する。その編成に当たっては、児童の学習意欲の向上や学習することの意義の理解、身に付けた力の生きて働く力への深化のために、児童にとって最も身近な社会である地域とかがわり、働きかける「体験活動と学習」を取り入れることを重要な視点とする。具体的には次の4点から実践的な研究を行う。①新設教科において育成する能力の明確化、②新設教科の目標や学習内容の具体化と指導方法の工夫、③教育課程や指導方法及び児童に身に付いた力の評価と改善、④地域社会と学校の学びの循環をつくる工夫

3 研究の目的と仮説等

(1) 研究仮説

社会の中でよりよく生き、よりよい社会をつくる資質と能力の基礎を育むことを目標とする教科「地域共生科」を創設する。その内容は、児童にとって最も身近な社会である地域とかがわり、働きかける「体験活動と学習」で構成する。この教科をこれまでの教育課程の核に位置付けて実施することにより、社会の中で、よりよく生きる力を児童一人一人に育むことができる。

(2) 教育課程の特例

- 「地域共生科」の新設
- 「地域共生科」の時数を創出するために別紙1のとおり変更する。

4 「研究内容」について

(1) 教育課程の内容

①教育課程作成の基本的な考え方の構築

現在の社会はグローバル化による価値観の多様化やテクノロジーの急速な進歩など激しく変化している。とりわけ本校が所在する地域は、仙台市の副都心として近年急速に開発されたため、住民の流動性が激しく、様々な文化や価値観をもった人々が生活している。このような社会にあっては、自己と他者、あるいは自己と社会の間に考えや価値観の差異が生じたり、これまで遭遇したことのない様々な問題に直面したりすることが多くなるだろう。

これからの社会を生き抜くために必要となるのは、

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ①社会では多様な価値観や考えをもっている人々が共生することの大切さの理解 ②他者の考えや価値観の理解 ③他者や社会に対して主体的に働きかける力 ④実社会で生きる思考力、判断力、表現力 |
|--|

このような力は、これまで各個人がその成長段階で直接社会とかがわることを通して、自ずと身に付けていくものと考えられていた。しかし、子どもたちの社会とかがわる機会は減少している。このままでは、将来、子ども一人一人が、社会的に自立した人間になりえるのが危惧される。

そこで、本校においては、前記の①～④の力を育むことを強く意識した力を「社会の中で、よりよく生きる力」とし、他者との関係性を重視し、現実社会を志向した教育の実現をめざすことにした。

②地域共生科の基本的な枠組みの確立

◆地域共生科で育みたい力

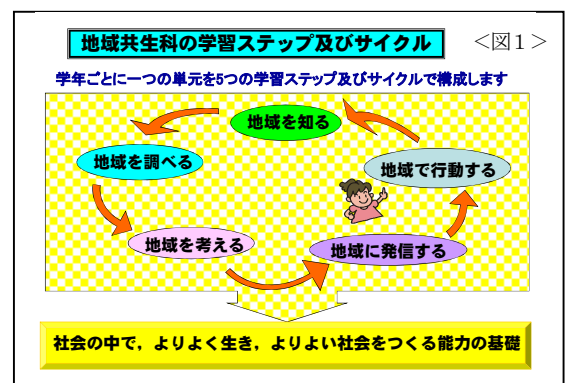
社会の中でよりよく生き、よりよい社会をつくる能力の基礎

◆地域共生科の学習ステップ及びサイクル

地域共生科は、<図1>のように5つの学習ステップ及びサイクルをもつ。実際の地域社会づくりに参画する活動を「地域で行動する」として、特に重視する。

◆地域社会と学校の学びの循環

次頁<図2>のように、児童に地域社会づくりの活動を体験させ、自分たちの活動が地域貢献につながっているという意識をもたせる。これにより児童の自己肯定感を高め学習の社会的意義を実感させる。また、このような児童の活動の積み重ねが、地域社



会の活性化や地域社会のよりよい地域社会づくりにつながるものと考えている。さらに、児童の活動は地域の人たちの地域貢献への意欲を喚起し、学校に対して、地域の教育力を積極的に提供していただけるようになると考えている。これを「地域社会と学校の学びの循環」と呼び、地域共生科の授業を進める原動力とする。

③地域共生科の教育課程上の位置付け及び授業時数の確定

研究1年次から一貫して地域共生科を教育課程の核に位置付けてきた。地域共生科で育みたい力は、他の教科領域等で育む力と関連するところがあり、互いに相乗的に育まれる性質をもっている。したがって、地域共生科は「超教科的」な特質をもった教科とした。

<地域共生科を教科とする理由>

- 地域共生科で育みたい力は、現在の社会において必要とされる力であり、全ての子どもたちに確実に育む必要がある。そのため、目標、内容、評価が明確な教科とすることが相応しい。
- 地域共生科で育みたい力を確実に育成することを教員、保護者、地域住民などに強く意識させることができる。

地域共生科を教科として成立する要件を満たすために、「地域共生科学習指導要領」の作成、指導方法の確立、評価方法の確立、地域共生科の教科書とも言える「地域共生科学習の手引き」の作成に取り組んだ。

<地域共生科の各学年の授業時数>

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援
平成21年度授業時数	34	35	50	50	50	50	35
平成22・23年度授業時数	50	50	70	70	70	70	70

研究2年次から地域共生科の授業時数を増やし、総合的な学習の時間の全授業時数と生活科の授業時数の約半分を地域共生科の授業時数に充てた。これは、主体的に探究活動に取り組み、地域共生科で育みたい能力を育成するには、授業時数を十分に確保する必要があると考えたからである。

したがって、本校においては、総合的な学習の時間を実施しないことになるが、「地域共生科」では、児童自身が地域社会の一員として、よりよい社会づくりのために、何ができるのか考え、地域の人々や児童同士で話し合い、判断したことを実行する。さらに、実行した活動が地域社会において、どのように役立ったかを振り返らせ、新たな課題の追究に向かわせたり、自分の生き方を考えさせたりすることによって、学習の発展や深化を図る。このような活動は、総合的な学習の時間の目標の「問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする」ことを適えるだけでなく、総合的な学習の時間を深化・拡充するものであると考える。

④地域共生科の目標及び育みたい力の明確化

地域共生科で育みたい力の要素及び系統表は、研究2年次に「社会貢献力」「思考力」「知識・技能」の3観点に整理・統合し、それに合わせて、教科の目標の修正も図った。研究3年次は、地域共生科の独自性と育みたい力の系統性をより明確化することをめざし、各学年の到達目標の見直しを図った。

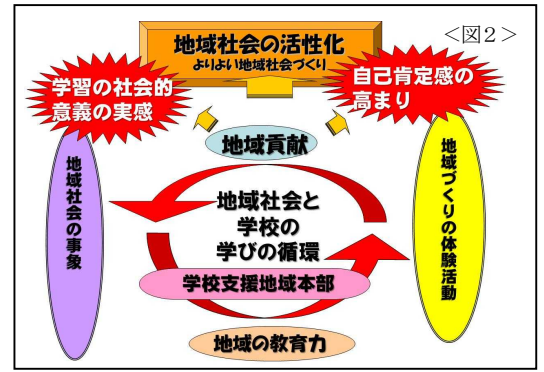
<地域共生科の目標>

地域社会の具体的な事象や課題に対する学習と地域社会づくりの体験活動を通して、地域社会に対する愛情を深め、地域社会の課題に対して主体的に取り組み、さまざまな価値観や考えをもつ人々と共生するために必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせるとともに、他者の考えや社会的価値観と照らし合わせながら、自ら考え判断する能力や、社会貢献活動のための基礎的な能力を育成する。

<地域共生科で育みたい力の要素及び系統表>

社会の中でよりよく生き、よりよい社会をつくる能力の基礎			
育みたい力の要素	社会貢献力	思考力	知識・技能
定義	地域社会を構成する人々や事象に関心をもち、その一員として地域社会の課題に主体的に取り組み貢献する能力	地域社会の課題を他者の考えや社会的価値観と照らし合わせて自ら考え、話し合い、判断する能力	地域社会に貢献し、共生するための基礎的・基本的な知識・技能
到達目標	高学年 地域社会の一員として、地域社会の課題に主体的に取り組み、地域社会の活性化・よりよい地域社会づくりに貢献する。	社会的価値観と照らし合わせて、批判的思考を生かした話し合いを行い、様々な人々の立場を考えて適切に判断し、最善策を創り出す。	地域社会における共生の意義と、その必要性を理解している。 関係諸機関と連携したり、既習の知識や技能、体験したことを活用したりして、主体的に地域社会の課題を解決することができる。
	中学年 地域社会の一員として、地域の人々や事象に進んでかかわり、地域の人々と一緒に、よりよい地域社会づくりに貢献する。	自分の考えの根拠を明らかにして、他者と話し合い、社会的価値観と照らし合わせながら、適切に判断し、よりよい考えや方法を創り出す。	地域社会における様々な人々の思いや考えの多様性を理解している。 必要な情報を積極的に集め、分かったことや自らの思いや考えを適切にまとめ、他者に伝えることができる。
	低学年 地域社会の一員として、地域の人々の暮らしや地域の昔の様子、自然と自分の生活とのかかわりを意識しながら地域社会づくりに貢献する。	共通の話題について、他者(地域の人々や友達等)となかよく話し合いながら、相手のことも考えて正しく判断し、よりよい考えや方法を創り出す。	地域社会における様々な人々の存在とそのよさを知り、互いに助け合って生活していることを理解している。 他者(地域の人々や友達等)と思いや考えを伝え合いながら、協力して話し合ったり、一緒に活動したりすることができる。

※地域共生科で考える「社会貢献」は、公の場で自分のよさを生かして主体的に活動することにより、自分自身の自信につなげることをめざすものである。
 ※本表で用いる「地域社会の課題」とは、地域社会に存在する負の問題のみを表すのではなく、よりよい地域社会をつくるために、地域社会の一員として果たすべきこととして用いるものである。
 ※本表で用いる「社会的価値観」とは、社会一般に通用している常識または見解である社会通念や、議論をとおして多数を占める考えを明文化した法や制度等を含むものと捉えている。それは社会において人間が行動するときに、一つの判断基準として用いるものである。



⑤地域共生科学習指導要領の作成

研究2年次に、地域共生科の学習指導要領を作成した。各教科の学習指導要領や研究開発学校等が作成した新設教科の学習指導要領を参考にし、「第1 目標」「第2 各学年の目標及び内容」「第3 指導計画の作成と内容の取り扱い」で構成した。

「各学年の目標及び内容」は、「地域共生科で育みたい力の要素及び系統表」に合わせて「第1学年及び第2学年」「第3学年及び第4学年」「第5学年及び第6学年」の3つの発達段階に分けて作成した。

そして、今年度は「平成23年度の地域共生科の目標及び育みたい力の系統表」をもとにして、学習指導要領を改訂した。改訂に際しては、各学年の学習プログラムや指導方法、評価方法等との整合性を図り、地域共生科の独自性が現れるように配慮した。

⑥「社会の中で、よりよく生きる力」を育てるための教育課程の編成（地域共生科と他の教科・領域等との関連）

本校では、これらからの社会を生き抜くために必要となる力を「社会の中でよりよく生きる力」として、他者との関係性を重視し、現実社会を志向した教育の実現をめざしている。地域共生科は「社会の中、でよりよく生き、よりよい社会をつくる能力の基礎」を育むことを目標として創設した教科であるため、地域共生科の実施により「社会の中で、よりよく生きる力」が育まれると考える。しかし、地域共生科と各教科・領域等との有機的な関連を図った教育課程を編成することにより、その力をより深く効率的に育むことができると考える。

そこで、地域共生科で育みたい力やそれをもとにして作成した地域共生科学習指導要領に示した目標や内容と他の教科・領域等の学習指導要領に示されている目標や内容との関連を考えた。特に地域共生科と関連が深いと考える国語、社会、生活、道徳、特別活動との関連を詳しく考察した。その結果、目標や内容に多くの点で関連を見出すことができた。さらに全ての教科・領域等と地域共生科との関連性を見出すことができた。

各教科・領域等で育成した力が、地域共生科の土台となり、地域共生科の学習や体験活動の中で生きて働く力に深化させることができるとともに、地域共生科の学習や体験活動が各教科・領域の社会的意義を実感させることになり、学習への関心・意欲を高めることにつながる。これらの関連性を意識しながら、各教科・領域等のカリキュラムを作成し、意図的・計画的に授業を実施することにより「社会の中で、よりよく生きる力」を育むことができると考える。

⑦地域共生科学習プログラムの創造（学習プログラム創造プロジェクトの研究内容）

◆地域共生科学習プログラムの作成の基本的な考え方

児童の発達段階や地域共生科学習指導要領を念頭に、他教科・領域との系統的な関連、地域共生科で育みたい力の育成や学習の流れの確立などを総合的に組み合わせ、どの地域でも実践可能な汎用性の高い学習プログラムを創造する。

◆地域共生科学習プログラム作成に当たって

- 児童、保護者を対象としたアンケート調査や学校支援地域本部連絡協議会委員（地域で子どもの教育に精力的に携わっているNPO法人の代表や市民センターの職員、ボランティア団体や子ども会育成会の代表など10名ほどで構成）の助言を参考に作成
- 実践を通して成果と課題を見出し、学習プログラムの改善・充実のポイントを定めて加除修正を繰り返し、各学年ロングスパンの1つの単元を構成
- 「地域性」「他者性」「学習技能」の3観点を一覧表にまとめた「地域共生科系統一覧表」を作成

<各学年の学習プログラムの概要>

学年	単元名	活動の概要
1年	まつりだ わっしょい！！in ななきた ～子どもの力で 地域を元気に～	地域の人々とともに、“まつり”をつくる。地域の人々を明るく元気にするには、どうしたらよいか考え、自分たちで作ったおみこしを担いで地域に飛び出す。
2年	見せるぞ！おいいさん・おねえさんパワー ～つくりよう えがおの町～	幼稚園や保育園（所）に行き、小さい子どもとのかかわり方を学ぶ。園児を楽しませる遊びを考え、園児や園のために自分たちでできることに挑戦する。
3年	おじいちゃん おばあちゃん わたしたち ～いっしょに笑おう いっしょに学ぼう～	地域のお年寄りと交流したり、アンケート調査を行ったりして、お年寄りを理解する。お年寄りと共に学び合い、高め合えるような教室をつくる。
4年	すぎだっちゃ！ 七北田 ～見つけよう 伝えよう 私たちのふるさと～	地域の昔の暮らしを調べたり、歴史の跡を辿ったりして、ふるさとのよさを理解する。創作劇などの表現活動をととして地域の人々にふるさとの魅力を伝える。
5年	よりよい未来を思い描こう ～つくりよう！素敵な自分 素敵な地域～	地域を支える人々の生き方や願いをふれ、理解したことをコミュニティFM局の番組から発信する。そして、よりよい地域社会づくりのために自分たちができることを考え、実行する。
6年	私たちでつくりよう 住みよい七北田 ～“つながろう！みんなの街”プロジェクト～	地域社会の課題を調べ、関係機関などと連携しながら、地域社会の活性化に貢献する。活動をととして地域社会における共生の意義を理解する。
特別支援	わたしたちの町 ～地域の人となかよくなるよう～	地域で活動する人々とふれあい、地域とのつながりを深める活動に取り組む。

⑧地域共生科の指導方法の確立（指導方法プロジェクトの研究内容）

◆地域共生科の指導方法の基本的な考え方

児童の発達段階に応じた学習の習得がより確実なものとなり、学年に応じて系統的に共生の意義を理解し、主体的によりよい社会をつくるために活動していくことができるようにするために、地域共生科で育みたい力を身に付けさせるための指導形態や学習形態の統一の工夫を図ったり、学習の手引きを活用した学習指導を行ったりする。

◆指導方法に関する研究内容

研究の中で有効性が認められた指導形態や学習形態、指導方法等を、全ての学年で取り入れ、実践に生かした。

<学習形態>

○グループ編成

- ・地域共生科では地域社会づくりに参画する体験活動を学校内外で多く実践していくことから、友達や顔見知りの方々に限定されない学習が日常的に展開されていく。学校内においても、より多くの他者とかかわり、他者の考え方を吸収したり受け入れたりする経験を積ませるために、意図的に学級枠を外したグループ編成を行う。

<指導形態>

○パートナー（※パートナーの役割は、講師として児童に教えるゲストティーチャーとは異なる。）

- ・地域共生科では、パートナーと共に学習する時間を設けている。パートナーとは、児童と共に一つの目標に向かって話し合い、共に創り上げていく大人のことである。パートナーは、話し合いの中で児童の考えが一般的な常識から外れることのないように導く役割も果たす。例えば、町の中にポスターを貼りたいという案が出た場合、許可が必要なことを助言したり、その考えが相手にとってどうであるか、相手から見た考えを促したりする。このように、パートナーには児童が気付くことのできない視点から意見を述べてもらい、より現実味のある話し合いにしていくようにする。また、児童の自己満足で終わる学びではなく、社会でよりよく生きるための資質と能力を養うことを目指していることから、パートナーを活用することで児童は思考を深めると共に、より現実に生きる考え方を学ぶことができるのではないかと考える。
- ・パートナーを交えた話し合いにおいては、折り合いながらよりよい考え方に変わっていく合意形成の場や、友達やパートナーの考えを聞きながら自分の考え方を批判思考する場が生まれていくことをめざしている。大人ならではの支援や巧みな切り返し等を期待すると共に、児童に意図的・計画的に深みのある思考の場を与えたいと考えている。
- ・保護者や協力団体には、年度当初に地域共生科におけるパートナーの意義と役割、学習の流れを知らせるために、「パートナーパンフレット」を配付し、パートナーの協力をお願いした。

<指導方法>

○オリエンテーション

- ・児童に地域共生科の学習の意義を理解させ、一年間の学習の見通しをもたせるために、学習の始めに「地域共生科 学習の手引き」を活用しながらオリエンテーションを行う。

○振り返り

- ・最終的に自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養うことをめざすことから、学びの各段階に児童が自分自身を振り返る場を設ける（自己評価・他者評価）。パートナーから賞賛してもらったり、児童が互いに認め合ったりする場を意図的に位置付け、有用感を得ること、またその積み重ねによって児童自身の自己肯定感が高められていくことを意識した指導を行っていく。

○系統性

- ・「地域共生科 学習の手引き」を活用する。
- ・児童の発達段階に応じて、一貫した指導を行う。
これまでの実践を通して、各学年の発達段階に応じた話し合いの仕方について頻繁に検討がなされてきた。例えば、話し合いの形態については、その時々課題に応じて、3、4人の小グループ、10人ほどの中グループ、学級、学年全体といった大きなグループなど、様々な形態を取り入れている。課題を解決するために、より効果的な形態を考えていくことは重要なことであると考え、検討を重ねてきた。また、どの児童からも考えを引き出すこと、大きなグループで話し合う前に、少人数で抵抗なく考えを出させること、話し合いの進め方や指導形態などについても、実践を通して検証してきた。
- ・話し合いの際には、「話し合いカード」を使用して進行するなどの実践も行ってきた。最終年度は、「話し合いカード」については、発達段階に応じた活用を検討した。低学年は、話し合いの基礎を学ぶ時期であると考え、具体的な話し合いの進め方を記入したカードを使用させた。3年生は、話し合いの流れやポイントを示したカード（ワークシート）を全員に配付した。また、学習の手引きの「話し合い」のページを全員で確認してから話し合いを進めるなどの工夫をした。4年生は、グループのリーダーのみが「進行カード」を使用し、話し合いの流れやポイントを確認しながら進めるようにした。高学年は、「進行カード」の使用も徐々に少なくし、その時間で話し合うポイントを提示するだけで、自発的に話し合いを進められるようにした。

◆「地域共生科 学習の手引き」について

<作成の目的>

- 「地域共生科学習の手引き」は、地域共生科の目標及び育みたい力に基づき、地域共生科の学習内容にかかわる基礎的・基本的な事項を明記することで、指導者が学習指導の際に活用するだけでなく、児童が主体的に学びかつ確実に地域共生科で育みたい力を習得できるようにすることを目的としている。

<概要>

○低・中・高学年用の3分冊になっている。地域共生科の学習についてだけでなく、地域に出て学習するときのマナーといった道徳的な内容、「話す」、「聞く」、「書く」といった国語的な内容も含まれている。国語的な内容が多いのは、国語力は全ての教科において必要な知識・技能であること、新学習指導要領で言語活動の充実が重点事項となっていることを踏まえたからである。

<活用方法>

○教師は、学習プログラムと「地域共生科学習の手引き」を照らし合わせ、必要な場面で必要な知識・技能を身に付けることができるように指導する。また、どのような教科でも必要な場面ですぐに活用できるように学級に常備し、児童の自ら積極的な活用を図る。

⑨地域共生科の評価方法の確立（評価方法プロジェクトの研究内容）

◆地域共生科の評価方法の基本的な考え方

指導と評価の一体化を図ることを念頭に置き、地域共生科における児童の学習や体験活動の様子を適切に評価する方法を確立し、児童の変容や成長を評価し、自己の課題の把握や自己肯定感の高揚につなげる。

◆評価方法に関する研究内容

<評価基準表の作成>

○地域共生科で育みたい力をもとに、地域共生科学習指導要領、地域共生科学習の手引き、各学年の指導計画との整合性を吟味し、期待する児童の姿を学習ステップごとに表し、評価基準を作成した。

<具体的な評価の方法>

○信頼される評価にするために

- ・評価の観点、方法を教師間で確認する。
- ・学習段階の中で、重点を置いて指導することを中心に評価する。

○評価方法を適切に組み合わせる。

- ・児童の発表や話し合いの様子、学習や活動の状況などの観察による評価
- ・児童のレポート、ワークシート、ノート、作文、絵などの制作物による評価
- ・児童の学習活動の過程や成果などの記録や作品を計画的に集積したポートフォリオ
- ・評価カードなどによる児童の自己評価や相互評価
- ・教師やパートナー等の記録による他者評価

○統一したためあての掲示

- ・地域共生科のオリエンテーション時や年間の活動の中で、自分たちがどのような力を付けていくのか意識できるようにした。

○感想の書き方

- ・授業後の感想の書き方を示す（掲示）ことで、その時間の中で理解したこと・次時への意欲・自分自身の変容を見取ることができるようにする。

○振り返りカード

- ・各段階の終末などで、振り返る時間を設けている。その際、振り返りカードを作成・工夫することで、児童の変容を見取ったり、次時への指導に生かしたりすることができるようにした。

○他者評価について

- ・パートナーなどによる他者評価は、児童の自己肯定感を高めることにつながると考える。活動内容により、他者評価カード（パートナーカード）や付箋を使い分け、児童に渡すことを前提として、パートナーに記述してもらう。

⑩地域社会と学校の学びの循環をつくる工夫

◆「地域社会と学校の学びの循環」の構築

研究3年目となり、学習内容や指導方法等が確立される中で、研究当初構想した「地域社会と学校の学びの循環」は確実に稼働してきている。

地域共生科で育みたい力として「社会貢献力（地域社会を構成する人々や事象に関心をもち、その一員として地域社会の課題に主体的に取り組み貢献する能力）」を定め、各学年で学習プログラムを作成した。

子どもの明るさと元気を背景に、規模は小さいながらも大人にはできない社会貢献を成している。また、地域共生科の体験活動を通して、児童と地域の人々とのつながりが生まれ、そのつながりは年々広がり、深まってきている。児童は地域共生科の授業の中で、町内会や子ども会、区役所、社会福祉関係機関、市民センター、企業、幼稚園、保育所、NPO等、多様な機関の方から話を聞かせていただいたり、子どもの活動への直接的な支援をいただいたりして、地域の人々とのかかわりを深めてきた。このかかわりは、地域の様々な機関や人々と「地域の活性化」や「よりよい地域づくり」というテーマの共有がなされることにより「学校への協力」から、「学校との協働」の関係づくりにまで発展してきている。さらに、ある地域の機関や人々とは「互惠関係」とも言える関係を築きつつある。このような関係が学校と地域のかかわりに継続性と発展性を生むと考える。

(2) 研究の経過

第一年次	<ul style="list-style-type: none">○東北大学大学院教育学研究科，仙台市教育委員会と連携し，「教育課程経営委員会」を開催し，教育課程の作成の指針をつくる。○教職員の見取りや学力検査の結果などから，「社会の中で，よりよく生きる力」に関する実態を探り，「地域共生科」で身に付けたい力や学習内容を探り，実践をする。○地域との連携の回り方を実践を通して探る。○東北大学大学院等の大学教授や仙台市教育委員会の指導主事等，学校外部のメンバーで構成する「運営指導委員会」を開催し，研究の全体計画を評価し，改善の手がかりを得る。○「地域共生科」での指導内容や指導方法，児童の変容等を評価し，二年次の教育課程を編成する。
第二年次	<ul style="list-style-type: none">○一年次の研究により，明らかになった課題を整理し，それを解決するための研究組織を立ち上げる。○「地域共生科」の学習プログラムを改善する。○「地域共生科」における指導の在り方を授業研究や日常の取組を通して探り，その内容や方法について整理する（「地域共生科」で必要とされる知識・技能を整理し，「学習の手引き」を作成する等）。○「地域共生科」で身に付いた力を評価するための方法を実践を通して探り，整理する。○「運営指導委員会」を開催し，研究の全体を評価し，改善の手がかりを得る。○「地域共生科」での指導内容や指導方法，児童の変容等を評価し，三年次の教育課程を編成する。
第三年次	<ul style="list-style-type: none">○二年次の研究により，明らかになった課題を整理し，それを解決するために研究組織を再編する。○「地域共生科」の学習プログラムを改善する。○「地域共生科」と他の教科・領域等との関連を検討する。○「地域共生科」の指導内容や指導方法の在り方を確立する。○「地域共生科」で児童に身に付いた力を評価するための方法を確立する。○地域との連携の回り方を整理する。○「運営指導委員会」を開催し，研究全体を評価する。

(3) 評価に関する取組

第一年次	<ul style="list-style-type: none">○「社会の中で，よりよく生きる力」が児童にどのように育っているかを教師が見取った児童の姿から評価する（単元や活動のまとまりで評価したものを集積し，学期ごとに成長の様子を評価する）。○「社会の中で，よりよく生きる力」にかかわる質問項目を設定して，児童，保護者，教員を対象に調査を行い，評価する。○教育課程や指導方法に関する学校評議会等の意見を集約し，評価に生かす。○教育課程や指導方法について，「教育課程経営委員会」や教職員で評価する。○研究推進等について「運営指導委員会」や教員で評価する。
第二年次	<ul style="list-style-type: none">○「社会の中で，よりよく生きる力」が児童にどのように育っているかを教師が見取った児童の姿から評価する（単元や活動のまとまりで評価したものを集積し，学期ごとに成長の様子を評価する）。結果を前年度のものと比較し，「地域共生科」の目標に迫ることができているかを分析する。○「社会の中で，よりよく生きる力」にかかわる質問項目を設定して，児童，保護者，地域住民，教員を対象に調査を行う。○教育課程や指導方法に関する学校関係者評価委員会等の意見を集約し，評価に生かす。○教育課程や指導方法，研究推進等について，「運営指導委員会」や教員で評価する。
第三年次	<ul style="list-style-type: none">○「社会の中で，よりよく生きる力」が児童にどのように育っているかを教師が見取った児童の姿から評価する（単元や活動のまとまりで評価したものを集積し，学期ごとに成長の様子を評価する）。結果を一年次，二年次のものと比較し，「地域共生科」の目標に迫ることができているかを分析する。○「社会の中で，よりよく生きる力」にかかわる質問項目を設定して，児童，保護者，地域住民，教員を対象に調査を行う。結果を一年次，二年次のものと比較し，「地域共生科」の目標に迫ることができているかを分析する。○教育課程や指導方法に関する学校関係者評価委員会等の意見を集約し，評価に生かす。○教育課程や指導方法，研究推進等について「運営指導委員会」や教員で評価する。

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

①児童への効果

地域共生科で育みたい力が児童に身に付いてきたとともに，国語と算数の学力も確実に身に付いてきた。また，学習の社会的意義の実感や自己肯定感も高まってきている。

<教師による見取りから>

- 児童の地域社会への愛着の深まりを感じ取ることができ，主体的に地域のためになることに取り組む姿が見られるようになった。
- パートナーを含めて，相手の考えを聞き，根拠を明らかにしながら，判断し，よりよい考えを創り出そうとする姿

が見られるようになった。

○地域社会には、様々な立場や考えをもった人々がいて、よりよい地域にするために活動していることを知ることができた。

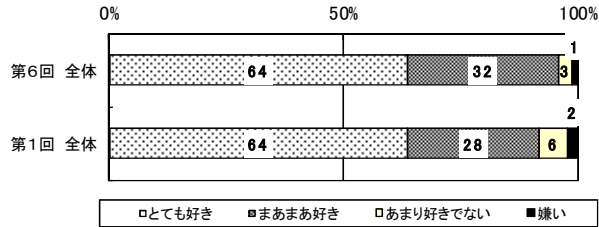
○相手のことを考えながら、自分たちの思いや考えを分かりやすくまとめ、伝えることができるようになった。

<児童対象のアンケート結果から>

○地域共生科に関する児童（特別支援学級の児童を除く全校児童）を対象としたアンケート調査における第1回アンケート（地域共生科の単元実施前 平成21年7月実施）と第6回アンケート（研究3年次地域共生科の単元実施途中 平成23年11月実施）のデータを比較した。

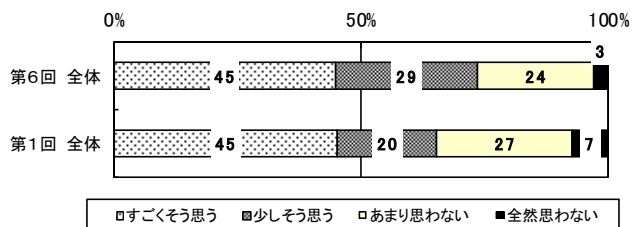
・地域社会への愛情をもつ児童が増えている。

今、住んでいる地域が好きですか。



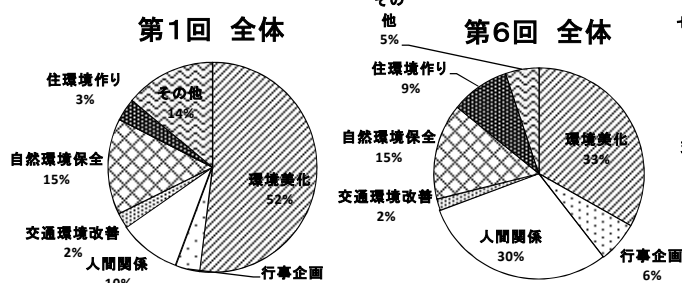
・よりよい地域にしたいという思いをもつ児童が増えている。

今、住んでいる地域をよりよい地域にしたいと思いませんか。

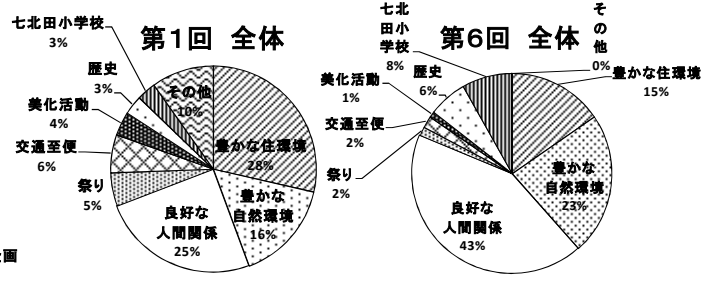


・他者とのかかわりの必要性や重要性を意識する児童が増えている。

地域をよりよい地域にするためにどんなことをしたいですか。



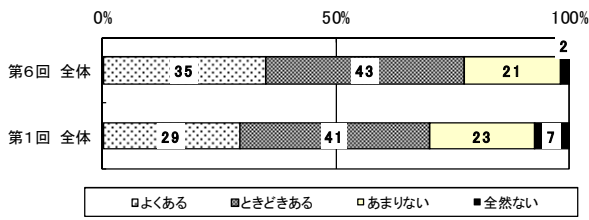
地域に関して誇りに思うことや自慢できることを書きましょう。



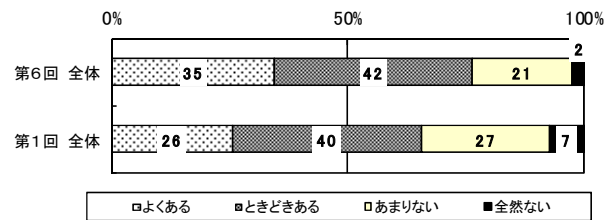
※両質問に対して、「人間関係」に関する記述の割合が増加している。

・「批判的思考力」や「合意形成力」が育まれ、他者と話し合う児童が増えている。

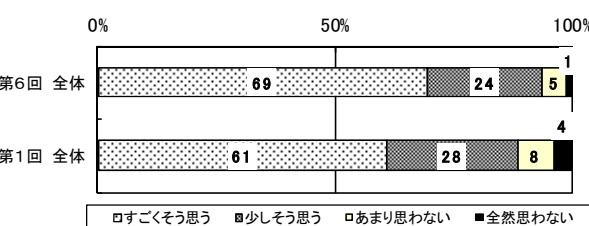
自分の考えを理由をつけて話すことができますか。



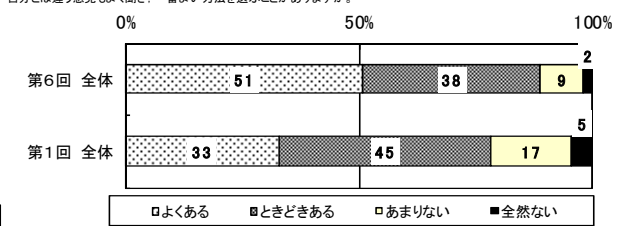
友達の考えと同じところや違うところを見つながら話し合えますか。



一人で考えるより友達と話し合うと、よりよい考えがうかぶと思いますか。

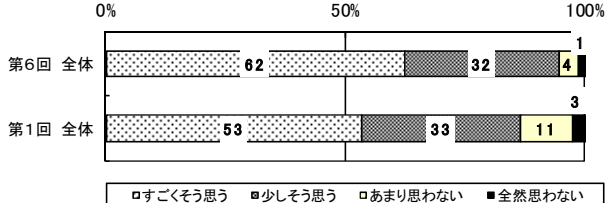


自分とは違う意見もよく聞き、一番よい方法を選ぶことができますか。



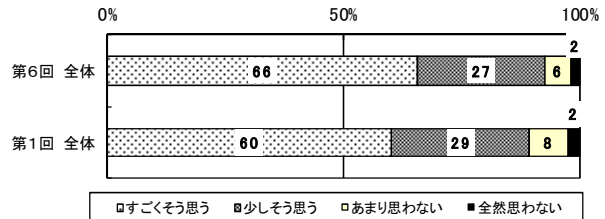
・いろいろな考えや価値観をもっている人が生活しているという理解をもつ児童が増えている。

自分のまわりの人たちは、いろいろな意見や考えをもっていると思いますか。



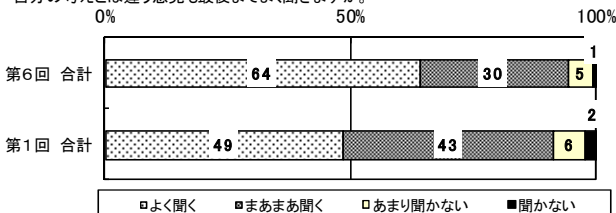
・学習の社会的意義の実感をもつ児童が増えている。

学校の授業で学習したことは普段の生活や大人になったときに役に立つと思いますか。

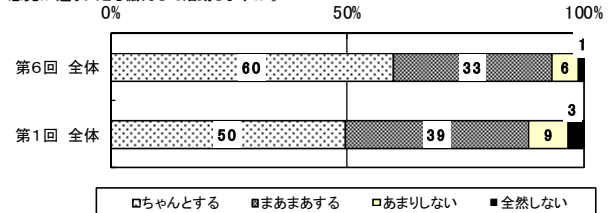


・「他者の考えを理解する気持ち」や「合意したことについては協力して活動する意識」（寛容性や折り合う力）をもつ児童が増えている。

自分の考えとは違う意見も最後までよく聞きますか。

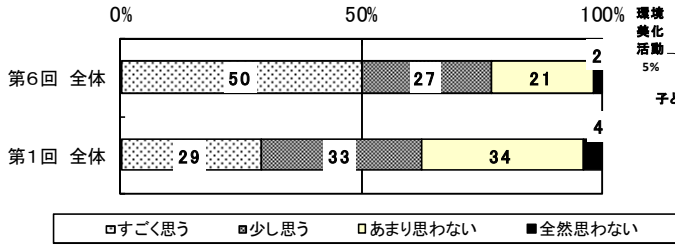


意見が違う人とも協力して活動しますか。

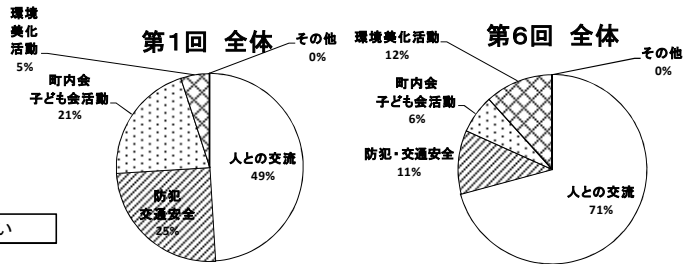


・様々な人々に助けられて生活することができていることを意識する児童が増えている。

地域の人々からお世話になっていると思いますか。

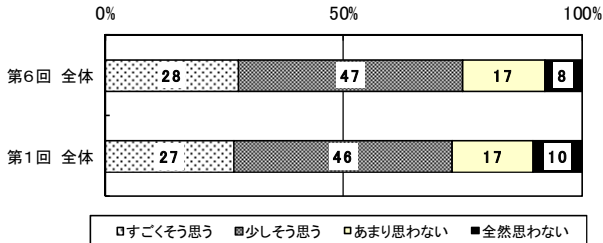


どんなことで地域の人々からお世話になっていますか。

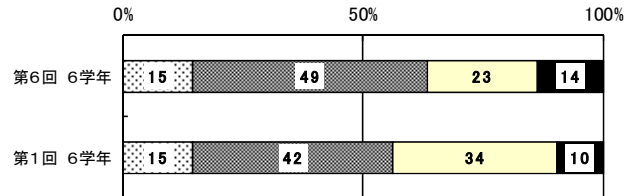


・自己肯定感が徐々に高まってきている。

自分にはよいところがあると思いますか。



自分にはよいところがあると思いますか。

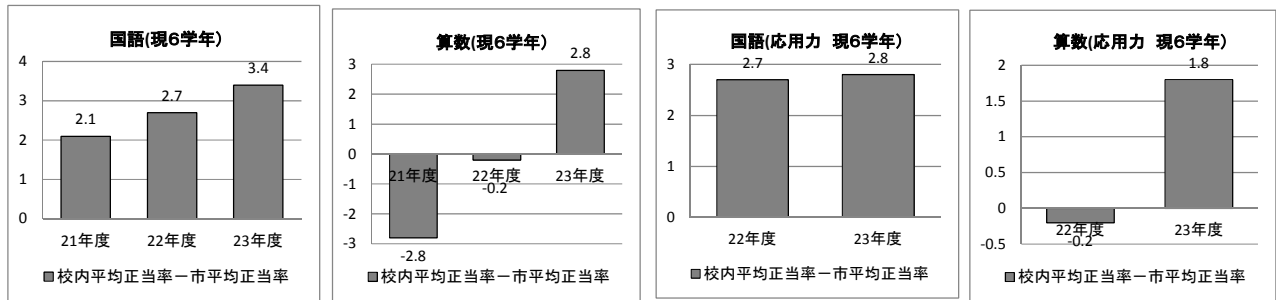


※「人との交流」に関する記述の割合が増加している。

※自己肯定感が最も低くなる傾向をもっている6年生を抽出したデータにおいて、肯定的な回答が7%増加している。

＜仙台市標準学力検査の結果から＞

○仙台市標準学力検査における仙台市全体と本校の現在6学年児童の平均正答率を抽出して比較した。研究開発を実施した3年間のデータをもとに、国語と算数及び国語と算数の応用力に関する仙台市全体と本校の平均正答率の差を下のグラフに表した。



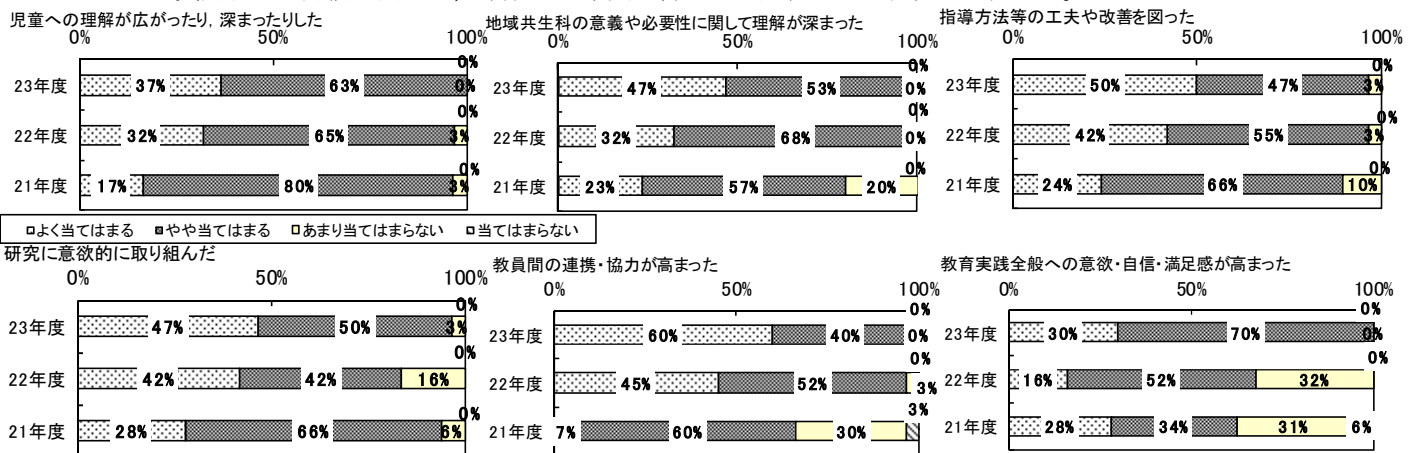
研究開発3年目の23年度には、国語、算数とともにそれぞれの応用力においても仙台市平均正答率を上回ったことが分かった。この結果が研究開発によるものと安易に結論付けられないが、本校の教育課程では地域共生科を核として「実社会で生きる思考力、判断力、表現力」を育むことをめざしてきた。このことと、仙台市標準学力検査の結果に何らかの相関関係があるのではないかと考える。

②教師への効果

教員一人一人が自己の力を発揮できるような研究組織をつくり、各プロジェクトや各学年で連携・協力しながら、研究を進めることで、教師集団としての力量が高まった。また教師自らがカリキュラムの作成に携わることで地域共生科の意義や必要性に関して理解を深め、指導の工夫や改善を図りながら意欲的に研究に取り組むことができた。

＜研究開発に関する教師対象のアンケート結果から＞

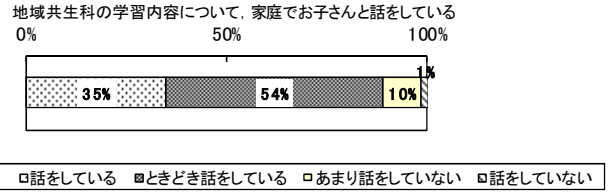
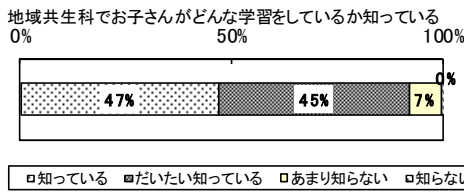
○全ての質問項目で評価が向上し、平成23年度は肯定的な回答が90%以上を占めた。



③保護者等への効果

保護者の「地域共生科について有効な学びである」ということへの理解を深め、関心や期待を高めるとともに、地域貢献に対する意識を高めることができた。また、パートナーには、児童とともによりよい地域社会づくりにかかわっているという意識をもっていただくことができた。さらに、行政の立場からも、本校の取組が地域の活性化に寄与することを理解していただくことができた。

<保護者対象のアンケート結果から> (平成23年11月実施)



<保護者の意見や感想 (一部掲載)>

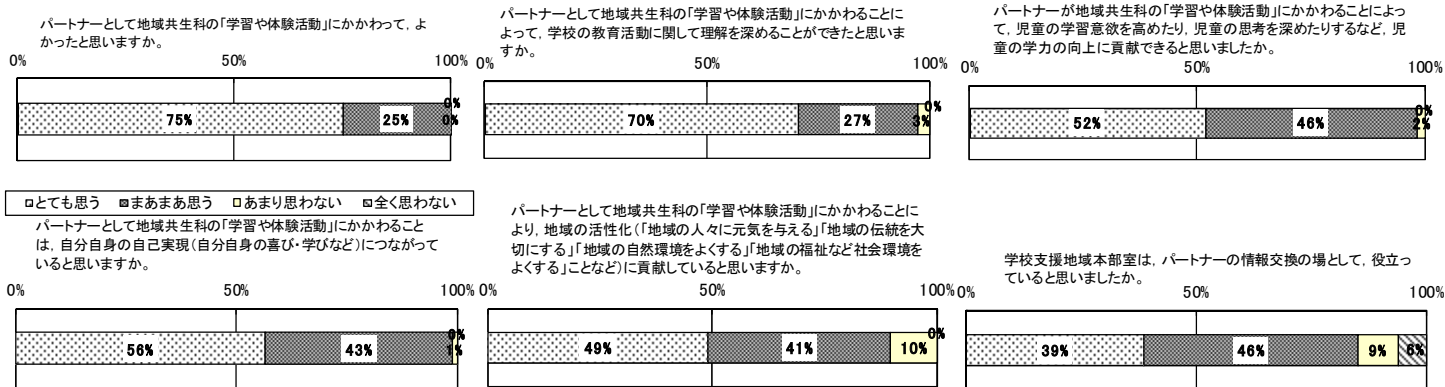
○地域共生科について肯定的な意見や感想が大変多く寄せられた。今後も地域共生科の継続を望む声が多く集まった。

- ・地域の方々が自分たちの気付かないところで、いろいろな活動をして、自分たちが助けられていることが分かったと思う。さらに、自分たちも地域の一員としてどうしたら役に立てるかを考える機会になったと思う。子どもだけでなく家族も同じように学習することができた。
- ・地域共生科の授業を通じて、社会で生きていくために必要なスキルが身に付いて行くように感じます(知識、経験、コミュニケーション力等)。
- ・地域には様々な人が住んでいて、お世話になっていると言われても子どもには実感がないと思いますが、この取組によって、いろいろな活躍をしている人たちを知ることもでき、震災によってその活躍を目にしたこともあり、とてもよい活動だと思います。そして子どもたちの中にも、地域のために何か行動してみたいという気持ちが生まれ、「自分で考えて行動する力」が身に付くことは将来において何の仕事を選んでも必ず役に立つことと思います。
- ・地域共生科の学習を通して、地域の機関や人々とかかわることができ、社会の中で生きる一員としての実感が芽生えていることを感じます。グループに分かれて活動することで、より主体的に学ぶことができているのではないかと思います。この科目について、先生方だけでなく、保護者や地域の人々が一体となって育てている感じがして、本当によい取組と心から思います。
- ・違うクラスの友達とも学習(交流)する機会がもてることは、とてもよいと思います。普段の授業とは違う先生やお友達の中で、意見を出し合ったり、みんなで一つのものをつくり上げたりする活動もとても貴重な経験だと思います。
- ・一番の願いは、これからもずっと地域共生科の授業を続けていただきたいということです。なかなか地域、社会とかかわることが少なく、家庭で話題になることもなかったのに、入学して2年、子どもも私たち家族も変わりました。とてもありがたいと感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・核家族が多くなり、転勤族が多い七北田の最近の地域性を考えると「地域共生科」のように学校の授業の中に地域を知る機会を与えてもらえるのはとてもうれしいことです。自分たちの暮らす地域に愛着が生まれるよい機会になると思います。
- ・地域を元気にしようという一年生のテーマで行われたお祭り、自分たちで考えて、みんなでつくりあげた御神輿を元気に担いでいく姿に子どもたちからパワーをいただきました。元気にしていくのは、やっぱり子どもたちの笑顔でした。5年生のラジオ放送も聴かせていただきました。いろいろな方々が地域のことを考え行動していることを知り、自分たちも地域のためにがんばっていききたいという思いが伝わり、とてもすばらしかったです。地域に深くかかわることで生活にもよい影響を与えていくと思うので、これからも続けてほしいです。
- ・国語や算数のように答えが〇か×か、はっきり出る教科とは違って、今回の取組が子どもにとって大きな自信につながったような気がします。
- ・子どもたちが幼稚園児の目線に合わせて、相手のことを思いながら進めているところは、すごく大切なことだと思います。うちは一人っ子なので、よい経験をさせてもらっているなと思います。子どもも最後までやりきったことに満足感でいっぱいでした。
- ・先生方やパートナーの方、ゲスト(地域の方)とかかわりながら、グループごとに話を聞いたり、自分の考えを発表したりすることは自分の自信につながり、他者とのコミュニケーションをとることで幅広い分野について学ぶことができたと思います。その中で興味あること、今でも将来でも自分がやりたいことなど発見できたりすると無限の可能性を秘めた魅力ある楽しい授業になるのではないかと思います。
- ・息子は学習を通して自己肯定感を実感することができました。
- ・学年が上がるごとに、それぞれが地域共生科が楽しいと言っています。地域の方々とのふれあいはもちろんのこと、自分たちで考え、形にし実行し、達成感を味わうことに喜びを感じているのだと思います。
- ・保護者の立場から見た「地域共生科」はとてもよいものでした。子どもたちは学校の枠を超え、多くの地域の方々と活動することができました。昨年、同居の母が3年生の教室に参加し、「本当に楽しかった。」とうれしそうに話しておりました。地域のご年配の方にとってもまさに「オアシス」だったのだと思います。他校の校長先生が「七北田小の地域共生科はすばらしい。地域の方々の協力もとてもうらやましい。」と話しておりました。そのお話を聞いたときとてもうれしく思いました。
- ・七北田の歴史について、息子から話を聞けてとても興味深く、子どもも自分の住んでいる地域がますます好きになったようです。それと地域産業にも貢献できていると思います。すいせん通りも歩いていて気持ちがよいです。
- ・3年間の取組を通して、子どもたちが地域とかかわりをもつことで、お互いが育て合う関係となり(子どもと地域の方々)、地域と共に歩む学校像が根付いて来ている感じがしました。地域共生科の話し合いを重ねる中で、子どもも自分らしさを発揮できている感じがし、一人一人確実に成長していることが感じられました。
- ・毎日の勉強の他に地域の方々とのやりとり、その中で学ぶ様々な出会いの中で、みんな少しずつ大きくなっていったと思います。七小の子どもたちは立派な挨拶ができるねとか、しっかりした子どもたちだね、など、たくさんほめていただき、母としてうれしく思います。
- ・先生、子どもたち、保護者、地域の方々と“つながり”があることはよい点がたくさんあるんだなと思いました。娘もチラシ配りや折り紙のプレゼントを区役所やペDESTリアンデッキでしたときに、相手の方が大変喜んでくださったようで、うれしい気持ちでいっぱいだったようです。子どもたちの“元気”や“やさしさ”が多くの人の「笑顔」になりますよね。
- ・この授業のおかげで「地域の人かね…」「地域がね…」と子どもが、家・学校・地域を意識して話すことが多くなりました。
- ・何よりもよかった点は、地域という身近な環境を題材に一人一人が意見を出し合い、考え、行動し、協力しながら目標を達成するという本当に子どもに身に付けさせたい力、自己肯定感や交渉術などが身に付いてきたのではないかと思います。特に6年生は少ない人数でプロジェクトを成功させなくてはならず、期限もあって大変そうでしたが、一人一人が役割をもちながら、互いに協力し合うことの大切さも学び、これから中学、高校と成長していく中で、地域共生科の経験が生かされていくのではないかと期待します。
- ・地域の方々ともふれ合ったり、地域のことを自分たちで調べたり、生きていく上で、とても大切なことを学んでいると思います。子どもたちはそれ以外にも表現力や思考力等、大人でも難しいところをたくさん学んで成長していてとてもよいことだと思います。

・自分の生まれ育っている地域を知ることは大切なことだと思います。両親共、仙台は生まれ育った町ではないので、なかなか地域の様子を教えることは難しいところがあり、逆に子どもたちの地域共生科の取組を聞いて、私たちが知ることができています。家庭だけでは教えられないことを子どもたちは地域の方々との出会いを通して教えられ、子どもたちなりに感じるものがあるようです。子どもたちが感じた姿を見て、こちらも考えさせられ、成長をうれしく思っております。子どもたちの成長に感謝すると共に、学校と地域に任せっきりにすることなく、私たち親も地域とのかかわりを積極的に考えていかなければならないと思っています。

<地域共生科に関するパートナー対象のアンケート結果から> (平成23年11月実施)

○全ての質問項目で肯定的な回答が90%以上を占めた。学校と地域社会の学びの循環が生まれてきている。



<パートナーの意見や感想(一部掲載)>

- ・何かを教えるというのではなく、一緒にやるというスタンスのパートナーの活動は楽しいです。
- ・我が家は転勤族でいざれば、この土地は離れるのですが、地域共生科でパートナーとしてかかわったことで、歴史や人とのつながりなどを学び、さらに愛着のある思い出に残る土地になりそうです。
- ・パートナーになったことにより地域共生科の会話が以前より多くなった。ふだんあまり交流のない方とお話することができ勉強になった。
- ・私自身が勉強する必要に迫られ、目標、目的があって心身ともによかったです。
- ・子どもたちのふだんの様子、活動の様子を長い期間に渡って見ることができ、成長も感じられ、よかったです。
- ・先生方や保護者の方と話す機会が増えたこと、子どもたちとふれ合えたことが一番よかったです。
- ・いつもは話をしない子どもと交流でき、意外な一面を見たり、楽しい時間を過ごせたりしたことはよかったです。
- ・参観日等よりも、身近に子どもたちとふれ合え、とても楽しくよかったです。子どもたちも親しみをもって接してくれました。
- ・子どもたちの方が多くのアイデアをもっており、パートナーの方が勉強させられたことの方が多く感心させられました。
- ・“ありがとう”という言葉がどれだけ大切か分かりました。誰もが言われたい、言ってほしい、言ってみたいのだと実感しました。声にして言葉にしたときの喜びが、それぞれの立場の人にあるのだと思います。
- ・一緒に活動してみて「かわいいな、何だか楽しい！」と思いながらできました。1年生なので、学校ではどんな感じかなと気になっていて、参観日以外にも学校へ来る用事があるっていいなと思いました。
- ・子どもたちの行動、性格の違いなどを把握することができ、子どもの個性を尊重することができるようになりました。また、先生方、他のお母様方との交流が図れたことも貴重な経験となりました。
- ・児童の成長ぶりを直に感じることは、とても充実した体験でした。
- ・かかわった児童の発表を見て、感激、感動した。
- ・子どもたちの名前と顔が一致してコミュニケーションを取りやすくなりました。子どもたちからも道ばたで会うと声を掛けられたりしました。いつも挨拶をしてくれます。
- ・一緒に活動する中で、子どもたちが「一人でできた！」(達成感)と喜ぶ姿を見られたことが一番うれしかったです。子どもたちだけでなく保護者同士もクラスの違う方と話す機会が得られてよかったです。

<泉区役所まちづくり推進課長の地域共生科の取組に関する感想>

最も興味深かったのはパートナー等として学習活動にかかわった住民自身が大変よかったですと高い評価をしていたことで、地域コミュニティの核としての学校(いわばコミュニティスクール)の可能性というものを強く感じたところである。地域づくりやまちづくりの視点から見ても地域共生科の取組は意義深いものがあると強く感じたところであり、具体的には以下の点において、地域づくりに資するものと考えている。

- ①地域とかわることにより、地域に対する愛着が深まり、地域づくりを支える次世代の人材の育成につながる。
 - ②パートナーとして直接、多くの地域住民が学習活動にかかわることの効果
 - ア. 子どもたちとの交流による地域住民の生きがい増進(学校に行くのが楽しみとなる)
 - イ. 多様な人材が学校によって結びつき、地域づくりを担う人材発掘につながる可能性がある。
 - ウ. 顔見知りの大人が増えることで挨拶する子どもが増え、コミュニティが活性化するとともに、安心・安全の地域づくりが進む。
 - ③地域の事業所との交流が促進され、地域の一員としての事業所の協力が進む可能性がある。
 - ④子どもたちが地域イベントに参加することで、地域活性化が図られる。
 - ⑤学校が主体的に関与することで、子どもたちが地域づくりに参加しやすくなる。逆に言うと学校の関与がなければ、子どもたちの活動は大きく制限される。
 - ⑥学校が地域連携に取り組むこと自体が、地域活性化を牽引する。
 - ⑦開発された学習プログラムが町内会活動や地域づくりに活かせる素材となっている。
- ※今後の地域連携を考えていく上で、学校の地域連携担当と協力関係を構築し、学校との連携・協力を進めていくことも重要と考える。

(2) 研究実施上の問題点と今後の課題

○他の教科・領域との関連を十分に図ったカリキュラムを作成し、一覧表にまとめる予定であったが、今年度から教科書の内容が変わったため、作成することができたかった。これを作成することによって、地域共生科と各教科・領域等との有機的な関連を図った指導を行い、「社会の中で、よりよく生きる力」を相乗的に育てていきたい。

七北田小学校 教育課程表 (平成23年度)

	各教科の授業時数									道徳	外国語活動	総合的な学習の時間	特別活動	新設教科 (地域共生科)	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育						
第1学年	306		136		52 (-50)	68	68		102	34			34	50	850
第2学年	315		175		55 (-50)	70	70		105	35			35	50	910
第3学年	245	70	175	90		60	60		105	35		0 (-70)	35	70	945
第4学年	245	90	175	105		60	60		105	35		0 (-70)	35	70	980
第5学年	175	100	175	105		50	50	60	90	35	35	0 (-70)	35	70	980
第6学年	175	105	175	105		50	50	55	90	35	35	0 (-70)	35	70	980
計	1461	365	1011	405	107 (-100)	358	358	115	597	209	70	0 (-280)	209	380 (+380)	5645